

## 前回資料からの改訂のポイント

### 1. 総論と各論の関係

- 総論： 当方の主張の要旨（体系立て整理） ⇒ 各論でのコメント箇所示す  
 （内外に ASBJ の主張のポイント示す + コメントの目次・索引機能）
- 各論： ① 当方の主張を詳述（多少強引でも、DP の質問に関連付けてコメント）  
 ② 質問の趣旨に沿った有用な指摘（+ ①の念押し）

### 2. 内容面の指摘ポイント

#### ① 「履行義務の測定の目的」に表明された考え方

- ・「財務報告の目的」を妨げる可能性がある「履行義務の測定の目的」（DP 第 5.7 項）につき、より直接的にコメント

DP 第 5.7 項(a) 契約上の「義務」（に関する現在債務）の描写 ⇒先験的な有用性は不明 ⇒むしろ(b)の有用性が害される危惧（言及すべきでない） （※ 資産・負債モデルのメリットはあまりなくなるが、そこまでは触れず）		
DP 第 5.7 項(b) 契約「業績」の描写 ⇒ 有用な成果報告に結びつく収益認識のあり方 ⇒ 先験的な有用性の説明 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>                             現行の概念FW ⇒ 前面に                              実現+稼得 ⇒ 無用な刺激避ける                         </td> <td style="vertical-align: middle;">                             ⇒ フィードバック・バリュー                         </td> </tr> </table>	現行の概念FW ⇒ 前面に 実現+稼得 ⇒ 無用な刺激避ける	⇒ フィードバック・バリュー
現行の概念FW ⇒ 前面に 実現+稼得 ⇒ 無用な刺激避ける	⇒ フィードバック・バリュー	

- ・(a)と(b)を等しく重視すると言いながら、実際には、(a)の期間変動として(b)を導出する構造

#### ② 工事契約

- 最上位概念：「財務報告の目的」の達成
- 上位概念：有用な成果報告に結びつく収益認識 ⇒ このレベルで整合性を保つ
- 下位概念： ⇒ 上位で整合性を保つため、下位では取引特性に応じた取扱必要

事業投資	{ 販売が後（工事が先） 販売が先（工事が後）…工事契約
金融投資	

- ★ 「整合的な」説明は、自己目的ではなく、より上位の目的の達成のため

#### ③ 支配の移転についての、合理的な解釈の確保

- ・稼得過程の完遂 ⇒ 義務の履行 ⇒ 財・サービスの提供（支配の移転）
- ・目的は収益認識の曖昧さの解決 ⇒ 「支配の移転」解釈の明確化必要 以上